

(評価者：科学委員会)

モニタリング項目	No. 20 ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査		
モニタリング実施主体	環境省釧路自然環境事務所、斜里町、羅臼町、知床財団		
対応する評価項目	VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	知床半島全域にて、ヒグマの目撃情報や出没情報、被害発生情報をアンケートや通報などにより収集。		
評価指標	出没及び被害発生の数。ウトロ・羅臼市街地に出没又は出没の恐れのあるヒグマの駆除数。		
評価基準	参考資料（基準なし）		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	【目撃・出没状況】 ヒグマの目撃件数は斜里町で703件、羅臼町で78件と、過去最多の目撃件数であった平成24年度を除く過去5年間の平均とほぼ等しかった。 【被害発生状況】 両町においてヒグマによる人身事故は報告されなかった。		
今後の方針	引き続き両町におけるヒグマ目撃・出没状況及び被害発生状況等の情報収集と整理を行う。 カメラマンによる人馴れが進む恐れがあるため、引き続き周知に努める。 (出没と人為死亡数が多かった年の翌年は出没・人為死亡が平年よりさらに減る傾向があると考えられるため、引き続きモニタリングを続ける。) 「知床半島ヒグマ保護管理方針」は平成24年3月に策定され、第1期の計画期間が平成28年度末までとなっていることから、次期保護管理方針の点検を行い、必要に応じて見直しを行う。		

※「今後の方針」には、評価を踏まえた対応方針（例：現状のモニタリングを継続、モニタリング項目の追加、〇〇事業の実施 等）を記載

<調査・モニタリングの手法>

ヒグマ出没状況は、斜里側においては観光客などによるヒグマ目撃情報をアンケート形式で随時収集することによって把握した。羅臼側においては、国立公園区域外も含む町内全域のヒグマ出没に関する通報ルート（町役場経由、主に地元住民が目撃・通報）による情報提供が主体のため、アンケート以外にそれらも含めた。アンケート用紙はヒグマを目撃した場所、日時、状況及び個体の特徴などを記入するもので、知床国立公園内にある主要な施設（知床自然センター、鳥獣保護区管理センター、知床世界遺産センター、知床五湖フィールドハウス、木下小屋、羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウス）に配置されている。アンケートは電話や口頭でヒグマ目撃情報を入手した場合や偶然ヒグマを目撃した場合にも記録し、地区別に集計した。

<調査・モニタリングの結果>

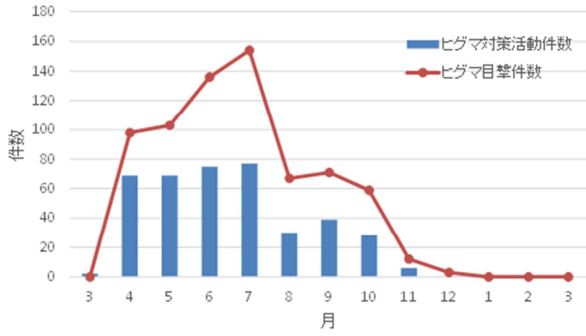
○国立公園及び鳥獣保護区におけるヒグマの目撃件数は斜里町で 703 件、羅臼町で 78 件と、2 年前の平成 24 年度と比較すると今年度のヒグマ出没は少なく平年並みであった。

○ヒグマの人為的死亡個体数は斜里町で 13 頭（有害捕獲 10 頭、狩猟 3 頭）、及び羅臼町で 6 頭（全て有害捕獲）の計 19 頭と、過去 5 年間と比較して平年並みかそれ以下の捕獲数となった。

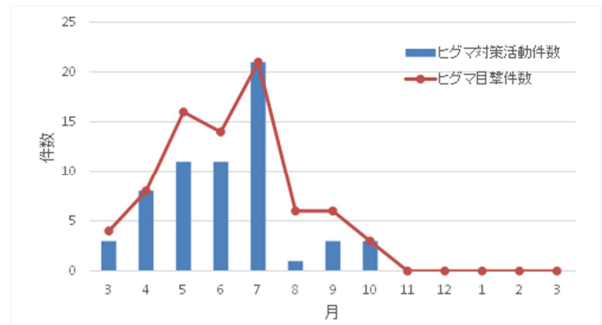
表 平成 26 年度の知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区における地区別・月別のヒグマ目撃件数

	月													総計	
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
幌別・岩尾別地区	0	79	76	89	99	49	58	41	11	3	0	0	0	505	(-40)
知床五湖園地区	0	3	6	8	15	6	1	7	0	0	0	0	0	46	(-10)
イダシュベツ・カムイワッカ地区	0	0	0	7	17	5	2	7	0	0	0	0	0	38	(+4)
知床連山登山道地区	0	0	0	0	7	0	3	0	0	0	0	0	0	10	(-7)
知床横断道地区	0	0	4	14	12	6	4	3	1	0	0	0	0	44	(+9)
知床岬地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(-1)
幌別川ーオペケブ川地区	0	16	17	18	4	1	3	1	0	0	0	0	0	60	(+51)
小計	0	98	103	136	154	67	71	59	12	3	0	0	0	703	(+6)
ルサー知床岬地区	0	4	4	11	8	5	4	1	0	0	0	0	0	37	(-1)
湯ノ沢町ー知床岬地区	0	0	1	3	8	1	0	0	0	0	0	0	0	13	(-4)
羅臼市街地北側ー岬町地区	4	4	11	0	5	0	2	2	0	0	0	0	0	28	(+18)
小計	4	8	16	14	21	6	6	3	0	0	0	0	0	78	(+13)
	4	106	119	150	175	73	77	62	12	3	0	0	0	781	(+19)

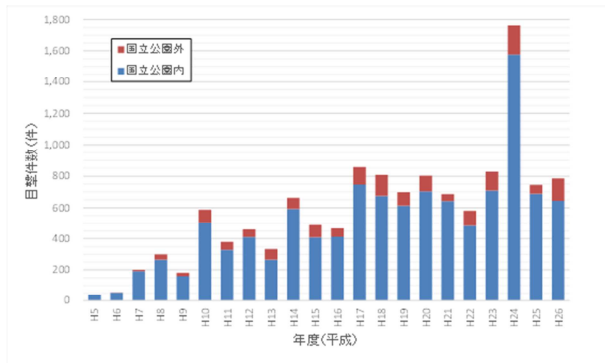
※（）内は昨年度との比較



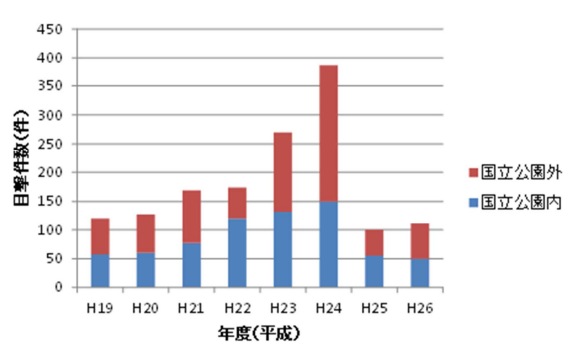
斜里町側におけるヒグマ目撃件数とヒグマ対策活動件数の月別推移
(平成26年3月～平成27年3月)



羅臼町側におけるヒグマ目撃件数とヒグマ対策活動件数の月別推移
(平成26年3月～平成27年3月)



斜里町内ヒグマ目撃件数の推移 (平成5～26年)



羅臼町内ヒグマ目撃件数の推移 (平成19～26年)

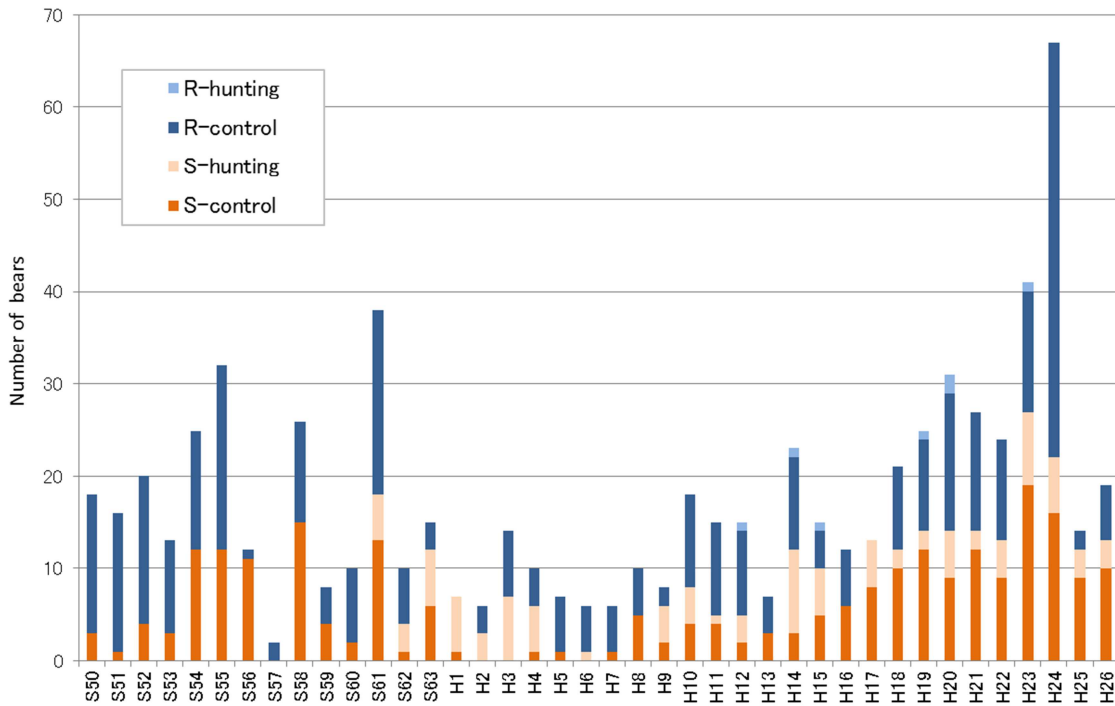


図1. 斜里町と羅臼町におけるヒグマの捕獲数
(R: 羅臼町、S: 斜里町、hunting: 狩猟による捕獲、control: 有害捕獲)

◎人身事故

平成 26 年度は、斜里町、羅臼町においてヒグマによる人身事故は報告されなかった。

◎危険事例

○斜里町

- 1) 4 月から 5 月にかけて、ウトロ香川の市街地柵外の住宅周辺で昨年のクルミの堅果を目的に複数のヒグマが頻繁に出没する状況が発生した。人を全く気にしない個体もあり、4 月 29 日には住宅前に出没したヒグマ (ID=BS) を住民がクマスプレーで追い払うといった事例も発生した。
- 2) 5 月 2 日以降、真鯉に単独亜成獣ヒグマが出没。うち 1 頭 (ID=BS) は 5 月に国道沿いを斜里基部方向へ徐々に移動、国道近くでシカを捕殺したり、ゴミを漁ったりする行動を取り、最終的に峰浜で有害捕獲となった。
- 3) 5 月 4 日、ウトロ保育所周辺で単独のヒグマが道路上をうろつき、緊急捕獲された。捕獲された個体は、無標識であったが、幌別川周辺でたびたび目撃されていた個体の可能性があった。
- 4) 5 月 11 日以降、数日間に渡り、ウトロ高原の住宅傍に複数のクマが繰り返し出没する状況が発生した。少なくとも大小 2 頭のクマが人目を気にせず、日中にも出没した。いずれのクマも昨年の掘り残したビートを食べていた。
- 5) 5 月 24 日以降、岩尾別の道道近くに 0 才 3 頭連れ親子 (親ヒグマ ID=CM) が繰り返し出没。人に対して威嚇突進を繰り返すなど、行動に注意を要する個体であった。
- 6) 4 月から 7 月の期間、自然センターからウトロにかけてのエリアに、人を気にしない亜成獣のヒグマ (ID=RB) が繰り返し出没した。ウトロ東の住宅裏やウトロスキー場など、人の生活圏にごく近い場所に出没する事例も頻発した。この個体に関してはその行動履歴から問題個体と判断され、国立公園外で有害捕獲する方針になったが、その後は公園外への目立った出没がなく、捕獲には至らなかった。8 月に入り、サケ・マスの遡上が始まると、岩尾別川、幌別川流域に繰り返し出没した。人を忌避しない性質は変わっておらず、来年度以降も注意が必要。
- 7) 6 月 9 日以降、ウトロ西の住宅裏に 0 歳 2 頭連れのヒグマが頻繁に出没。出没個体は、住宅裏の斜面で日中にフキなどの草本類を採食するなど、人に対する警戒心が極めて低い個体であった。6 月 23 日に住宅裏に再出没し、捕獲された
- 8) 7 月 25 日、ウトロ漁港の三角岩にヒグマが出没しているとの情報が、釣り人より寄せられた。目撃者によれば、三角岩で釣りをしていたところ、海岸線沿いを移動中のクマを発見し、避難したとのこと。その後、クマは三角岩からウトロ東方向に泳いでいき、ウトロ沢付近で上陸した模様。現場確認の結果、ウトロ沢付近でクマの足跡らしき痕跡を発見した。
- 9) 9 月 15 日、プユニ岬付近で自転車に乗った男性が約 30m に渡ってヒグマに追いかけられるという事例が発生した。最接近距離は約 10m で、個体のサイズは成獣クラスだったとのこと。
- 10) 9 月 23 日に、知床横断道路にてヒグマが車を追いかける事例が発生した。現場確認を行ったが、該当個体や誘引物の発見には至らなかった。目撃情報によると、クマは道路上方から降りてきて、怒った様子で車を追いかけてきたとのこと。
- 11) 10 月 9 日、知床五湖地上遊歩道でのヒグマの目撃情報が寄せられ現場確認を行った。地上遊歩道の大ループ上で該当個体を発見した。この個体は、対策員の姿を見ても忌避することなく、5m ほど歩道上を歩いて接近してきた。その後、追い払いに入った別の職員に対しても、フーフーと言いながら興奮する様子をみせた。

○羅臼町

- 1) 7月26日、麻布町の水産加工場に隣接した住宅で、屋外に設置されていたゴミ箱が荒らされ、中身の生ごみが持ち去られた。現場付近でフキの食痕が確認されたため、ヒグマによる被害である可能性が高かった。
- 2) 7月28日深夜、麻布町の住宅で生ごみの入ったバケツが荒らされた。付近でヒグマが目撃されたため、このヒグマによるものと推測された。
- 3) 8月、赤岩において、漁業番屋の近くから離れないヒグマが確認された。漁業活動に支障が出たため有害捕獲方針となったが、捕獲には至らなかった。